

O.S.P



VOL. 7
AUGUST

[OSPREY]

S

[SPIRITUAL]

P

無料
ご自由にお取りください

[PERFORMER]

Keep it on the down low!!

— 並木敏成が語る —
あのルアーの真実
ルアーにおける、
音の効果を紐解く



O.S.P
動画
随時更新!!



The Kotaro's Maxims
ワーミングの
極意を伝授!!

Journal

O.S.Pが誇る三人のスペシャリストが“旬”を説く!
三人の賢者はこう釣る!!
奥村哲史@琵琶湖 / 金沢俊佑@検原湖 / 坂本洋司@旧吉野川

O.S.Pクロニクル
カバーをタイトに攻められるビッグベイト
Typhoon



9月27日
開催決定!!

T.Namiki Cup 2015
今年も利根川で開催!!
詳しくはO.S.Pサイトをチェック

THE KOTARO'S MAXIMS

ワーミングの極意を伝授!!

今回は「落ちバク」という言葉を生み出した、ドライブクローについて解説する。光太郎のこだわりが随所につまった、クローワームの代名詞。その使い方に迫る!



着水直後からピックアップまで誘い続ける!

川村光太郎が手掛ける「DoLive (ドライブ)」の名を冠するソフトベイトの、第一弾として世にリリースされたドライブクロー。いまや釣れるクローワームの代名詞として定番化している。水中にいる間、必ずどこかのパーツが稼動し、バスにアビ

ールする。フォールだけ、もしくはボトムでアクションを加えたときだけではない。着水からピックアップにいたるまで、常にバスに生命感を発し続ける。タックルボックスに常備しておきたい、そんなドライブクローの解体新書。ぜひ、ご一読あれ!

アクションによる視覚効果 その代表的パーツはツメ!!

アクションによる視覚効果を求めた、というのが最大のコンセプトだが、その代表的なパーツはドライブクローの特徴でもあるツメ。ボディとツメの接続部分を薄くし、ツメは分厚くしたことで、ロールを伴ってスイングする。これがフォールバイトを多発させるだけでなく、込み入ったカバーの中や、視界が効きにくいマッディウォーターでもバスを振り向かせる。



MAXIMS

置いて食わせることも考えて 見た目のリアルさにもこだわった

ボトムでスローに、ときにはバスにじっくり見せて食わせることも考慮して、リアルなフォルムにもこだわった。すべてにおいて生命感を追求。これも「DoLive」の語源でもある、ド級のライブ感の一端を担う(後述するニオイにもつながる)。「ナチュラルさでいうと、本物のエサにはかないません。でもときに、エサを超えるほどの鋭い反応を見せるのは、バスならではの興味であり、反射であり、威嚇といった本能をいかに刺激できるか。それらの要素をどれだけ詰め込み、瞬間的なインパクトの中に本物っぽさを持たせられるか。そこもこだわった点です」。



全4サイズの基準は3インチ デカバスにはやっぱり5インチ!!



2in, 3in, 4in, そして5inと全4サイズを揃えるドライブクローだが、テキサスやジグトレーラーによるカバー撃ちでは、3inと4inが圧倒的に出番となる。2inは先述したダウンショットのほか、スモラバとの相性も抜群。そして5inはドライブクローのハイアピールをさらに際立たせる存在としてひそかに人気を博している。「目立ったモン勝ちのときは5in。あのサイズとボリューム感ならではのパワーは別物で、デカバス好み。カスミでもこのサイズが最も効くことがあるので、ワンパックは持っておきたいですね」。ちなみに適合するフックサイズは3inには1/0、4inは3/0、5inには5/0。

MAXIMS

1

MAXIMS

思いとどまるバスを食わせる イカとエビのニオイを発する素材

タフなとき、食う食わないで迷うバスは必ずいる。と光太郎は言う。そんなときの決め手のひとつに、ニオイがある。「ドライブクローに限らず、すべての「DoLive」シリーズの素材に配合したのがエビとイカのニオイです。効果が不確かなケミカルな香料ではなく、本物のエビとイカを粉末化しているから間違いない。また、素材に練り込んでいるからオイルなどのあとからつけるものよりも持続力が増しました。生命感のアップは疑いのないバイトにつながります」。



シェイブと素材がマッチしてはじめていいワームになる!

MAXIMS

ニオイに加えて塩も含有。素材はサイズによって、最もいいアクションが出る硬さを吟味。そんなドライブクローだが、すべてはシェイブとマッチしているからこそ。同じシェイブでも、硬さや比重を変えてテストしてきたがゆえ、胸を張って言える事実である。「強く水を押す重さはあるつつ、ナチュラルな倒れ込みを実現。これは中比重素材を採用したがゆえ。塩をたっぷり入れた高比重素材のドラクロも試しましたが、アクションが出なくなってバイトも減りました。ワームは釣れてナンボですから!」。

さまざまなリグに高次元で対応 2inモデルはサイトフィッシングにも!



MAXIMS

3

ドライブクローは使うリグを選ばない。テキサスリグ、キャロ、ジグのトレーラー、さらにはダウンショットやジカリグと、対応するリグは多彩。本当に「死角がないワーム」と表現してもいいだろう。「2inのダウンショットはサイトにも有効です。小さくてもしっかりアピールするし、小エビや小ザリのようなリアルさもある。エサっぽくもリアクションベイトとしても使えます」。

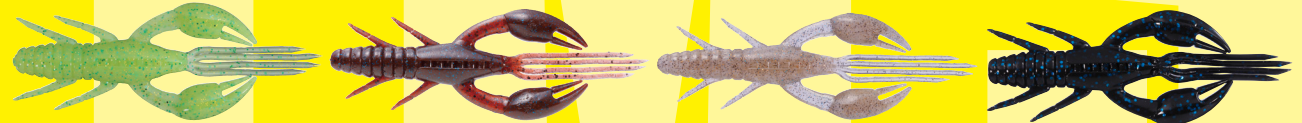
MAXIMS

7

サイズによって差はあれど、現在41色を揃えるドライブクロー。そのどれもが自信を持って「釣れる」と断言できるが、中でも光太郎が持っておいてほしいというのは4パターン。「ベースカラーがザリガニっぽい色に加えて、エビっぽくてプレッシャーに強い透明感がある色

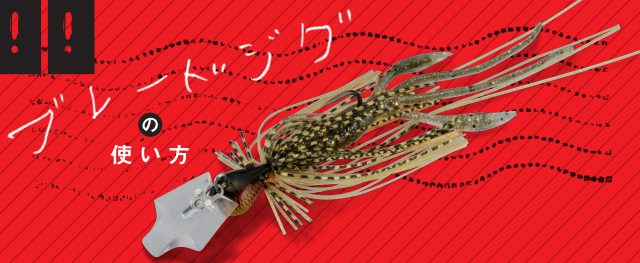
どれもみんな釣れる色だけど 持っておきたいライムチャート

と、濁りの中でも際立つ黒系、日没前や曇天といった薄暗い中でも目立ち、明らかに効果があるライムチャート。これら4パターンに加えて、ツメがロールするたびにチラチラと明滅効果を発揮し、リアクション効果も高いツートン系もあれば万全ですね」。



左から順に、持っておきたいライムチャート。スカッパノン・ブルーフレックなどのザリガニ系。抱卵エビのような透明感のある色と、シルエットがはっきり出るエビミソブラックやブラック・ブルーフレックなどの黒系も外せない

O.S.Pが誇る凄腕プロスタッフが解説する
“絶対釣果”を確約するルアーの使い方。
これさえ読めば、今日からアナタもGo-Getter!!



の
使い方

納谷宏康のシークレット



基本的にはただ巻きで使うブレードジグですが、ボトムにつけてステイさせ、動かした瞬間のリアクションバイトで誘うとハイブレッシャーレイクのバスも一撃です。しかもスレに近く、同じスポットからグットサイズを連発させることができるテクニックですね。ブレードジグは本当に、他のルアーよりもスレにくいいため、同じスポットから複数匹のバスを手にとることだって可能です。ぜひ、試してみてください!!

基本的な使い方

基本はキャストして一定のスピードで引くだけで釣れますが、バイトのタイミングを与えるために、ストラクチャーに少し絡めて、外れた瞬間のリアクションバイトを誘うのも効果抜群です。ブレードジグ特有の生々しい泳ぎに加えてブレードが起す強い波動、そして時おり見せるチドリアクションが、スレたバスをも夢中にさせます。



ブレードジグは通年釣れるルアーです。スピナーベイトは近年のハイブレッシャー化によって見切られることが多くなり、半信半疑でのバイトが多く、外掛かりやバラシの原因に...そんな中でもベイトフィッシュを多く捕食する季節、特に横方向の動きに反応が良くなる秋は外せないルアーですね。

有効になるタイミング



納谷宏康
(なやひろやす)
霞ヶ浦水系をメインにチャプターやJB戦、さらにはW.B.S.にエントリー。河川湖のプロ戦でも優勝経験のある、バイタリティ溢れる生粋のトーナメンター

ボクのホームグラウンドのカスミ水系ではほとんどが3/8ozで、シャローを攻める時に1/4ozを使うこともあります。このように、レンジによってウエイトを使い分けるといいでしょう。カスミ水系ではとりあえず、この2サイズがあればOKです!

ウエイトの使い分け

ブレードジグにはもともと付属されている、アクショントレーラーがあります。これでもまったく問題ありませんが、ベイトフィッシュを捕食しているバスに対してはドライブスティック4.5inが効果的。ボリュームのあるボディで目立つシルエットは、エサを探しているバスに強烈にアピールしてくれます。

最適なトレーラーとその使い分け

アクショントレーラー4in



ドライブスティック4.5in



PRESENT!!!!

セットで1名様に!!

O.S.P. 撥水ワークメッシュキャップ モデル2 ターコイズ/オレンジ



O.S.P. ロングスリーブTシャツ モデル9グレー/L

O.S.P. 非売品ステッカー

応募方法_希望者はメールにて、件名「O.S.P. JOURNAL プレゼント係」とし、以下の項目にお答えください。

- このパンフレットをどちらのお店で手にしましたか
- このパンフレットの率直な感想
- このパンフレットに求める情報
- 釣り歴とホームグラウンド
- O.S.Pで好きなルアー

以上5点の回答に加え、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、ご応募ください。締切は2015年9月3日。当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。

event@o-s-p.net

個人情報について_ご提供いただきました個人情報は厳重に管理し、賞品の抽選、発送および当選者への連絡に使用します。また、提供者の同意なしに業務委託先以外の第三者に開示・提供することはありません(法令等により開示を求められた場合を除く)

毎日更新! O.S.P.のすべてがわかる!!
O.S.P.公式ホームページ

www.o-s-p.net

O.S.P. Lurefishing Facebookページ
http://on.fb.me/1ivloty

並木敏成の知られざる素顔が明らかに...!?
並木敏成オフィシャルサイト「THIS IS T.NAMIKI」
http://t-namiki.net/

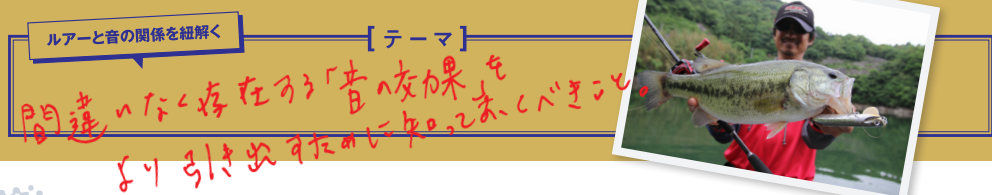
並木敏成Official Site「THIS IS T.namiki」
更新情報 Facebookページ

http://on.fb.me/1iE8UiY

KEEP IT ON THE DOWN LOW!!

これは、ここだけの秘密と、いうことで…

—並木敏成が語るあのルアーの真実— このパンフレットを手にした、あなただけが知ることができるあのルアーの真実と、本当の使い方。



バスの視界が利きにくい状況で音によって存在をアピールする

今回はルアーと音の関係について、紐解いていこうと思う。バスフィッシングにおける「音の効果」というものは、間違いなくあると感じている。それはメリットとして働くことがあれば、逆にデメリットとなることもしばしば。一般的にはバスの視界が利きにくいような状況、例えばマッドウォーターや、カバーが豊富にあるとき。クリアウォーターでもディープになると日光が届かないため暗く、バスの視界は利きにくいと考えられる。またトップウォーターでも、ルアーとバスとの距離があるときなど、こうした状況において、音でバスにその存在を気づかせるのだ。

では、デメリットになるとき、とは？ よく言われているのは、人が流したあとなど、プレッシャーが掛かっているとき。ここでは音がないほうが、釣りこぼしを獲れる可能性明らかに高いと感じている。しかし、前に流した人が音を発しないタイプのルアーを使っていたときは、音を発するルアーをチョイスすることで、より遠くのバスを呼ぶことができ、釣果につながるケースもある。

このように、人があまり足を踏み入れられないような野池などのプレッシャーとは無縁のフィールドや、朝イチ、誰かがキャストをする前に真っ先に釣りができる状況であれば、当然、音のあるルアーのほうが勝負は早い。だが、その場所においてさらに匹数を伸ばしていこうと思うのであれば、音を発しないサイレントのルアーに替えるといいだろう。

さて、ルアーの音といっても、さまざまな種類がある。プラグ、およびワイヤーベイト系が発する音では、例えばバズベイトに代表される金属の接触音がある。また、プラグではボディ内部に配されたラトルもあり、スイッチャーの回転するペラがボディや金属のパーツと干渉することによって発する音もある。

特にプラグにおいて、リップの抵抗でウォブリングやローリングをするタイプのルアーは、ボディ内のサイレント化が図られていたとしても、フックの先がボディに当たる音がしたり、スプリットリングが振動する際に、ある程度の音を発する。もちろん、作り方によって音のボリュームに大きな差が生まれるわけだが、サイレントモデルのルアーといえど、少なからず音を出していることも覚えておいてほしい（O.S.Pのサイレントバジックランクは、フロントフックの針先がボディに当たらないよう、特殊なスタイルでフックを固定している）。

そう考えるとi-WaverのようなI系系プラグは、まずボディがウォブやロールをしないので、一定のリズムで引いている限りは無音で誘い続けることができる。だからこそ、クリアウォーターやすれっからしのバスが相手のときなど、バスに対して音で気づかせる必要がない状況、もしくは音を嫌うような状況において、絶大な威力を発揮する。つまり完全サイレントゆえ、口を開かせることができるのである。

ラトルの誕生は偶然の産物だった!?

ラトルというものはアメリカが発祥で、ルアーはウッドで作られるのが一般的だった中で、あるときからプラスチック製のルアーが出回るようになった。そのころ、あるルアーのボディ内で固定していたウエイトがたまたま外れてしまい、振るとカタカタと音が鳴った。そしてこっちのほうが釣れる、となり、ラトルを伴

ったプラグが増えはじめた、という話を聞いたことがある。つまりラトルは、偶然の産物だったのだ。

そこでシャロークランクとラトルの関係について話を進めようと思うのだが、音がある仕様にするとしても、動きがダルくなる傾向にあり、実際に、そういうルアーが多いのも確かだ。

例えば優秀と評される一部のバルサクランクは、重心が一点に集中した構造となっている。つまり支点となる箇所重心を集中して作りやすいため、ボディ自体は超ハイピッチになりやすい。さらにサイレント化されているがハイピッチであるため、波動も強くなる。

逆にプラスチック製では駄肉の多い作りをしていると、特にラトルルームなどを設けるとその壁の重さもプラスされるため、動きの支点となる部分に重心を集中できず、緩慢な泳ぎとなる。ハイピッチな泳ぎにはできず、音は発生するものの、ボディが水を押し出すときに波動は弱くなってしまふ。こう考えると、シャロークランクにおける音の有無もまた、一長一短である。

中にはバルサ製クランクでもラトルイン仕様はあるのだが、どうしても動きは鈍くなるうえ、ラトルがバルサボディに当たることで発する衝撃音は、プラスチックとは異なり吸収されてしまふ。硬いプラスチックに比べると、バルサはスポンジのようなもの。ボディ内に金属やプラスチックのラトルルームを埋め込むと、音は大きくなるかもしれないが、バルサが防音壁となるため衝撃音はかき消されてしまふ。つまり、プラスチックでなおかつハイピッチに作られたルアーで、さらにラトルルームを設けずに内部を遊動するラトルが、泳ぎの支点となる位置の近くで左右の壁にヒットする。つまり、ハイピッチな泳ぎと衝撃音を両立。これが、ラトルブリッツなのである。

より音を響かせる乳白色のボーン素材

ボディの硬さの話が出たので、プラスチックにも大きく2つの素材があることについて言及しておこう。

一般的なクリアの樹脂はゴーストカラーが作れたり、リップが無色化できるため、ルアーをナチュラルに仕上げるのが可能である。ただし、プラスチックの中でも若干やわらかい。これに対して

乳白色の“ボーン素材”と呼ばれる樹脂は硬く、ラトルの衝撃音は非常に大きい。ラトルブリッツシリーズは、このボーン素材を採用しているのだが、これ以外にもダイバジンやバジックランクには“ヘビーヒッター”モデルを用意。さらにYAMATO O.S.PとYAMATO Jr.においても、“スペック2”と銘付いたボーン素材のモデルを取り揃えている。これらアイテムのボーン素材による音の効果は非常に絶大であることは、すでにご存知のアングラも多いただろう。

琵琶湖のような広大なフィールドで、特に南湖のようにウィードが繁茂しているとき。バスがその外でうろろろしているのであればノーマルモデルのYAMATO O.S.Pで十分アピールできるが、生い茂るウィードの中に入らざるを得ない状況下では、やはり音の大きなスペック2が重宝する。この事実は自分だけでなく、O.S.Pプロスタッフであり琵琶湖プロガイドの森田哲広氏も同様

に感じているという。森田氏の知識は自分の眼から見ても非常に興味深いものがあり、ときに強く感心させられる。そのひとつが「琵琶湖でよく釣れるトップウォーターはロッドアクションによって大きな音を発するものはもちろんですが、ポーズ中、波に揺られているときでも、音を生むルアーのほうが明らかに釣れる」というもの。ちなみに同じウエイト同士で見るとスチール球よりタングステン球のほうが、直径が25%小さくなる。ヤマトシリーズのスペック2においては、ラトルの音が鳴りやすいように、3つあるウエイトボールのうち、1つをスチールからタングステンに変更しているだけでなく、ボディをチューニングしてウエイトの可動域を拡張。こうすることでポーズ中に波や風を受けたときに、自発的に、かつより大きな音が鳴るよう作り上げている。

森田氏といえば「日本一ルードラで釣る男」として有名だが、そのルードラが今年で生誕10周年を迎える。これを記念して、ボーン素材を用いてヘビーヒッター化した限定モデル“RUDRA130HF 10th Anniversary Limited”をリリースする。

そもそもルードラはハイピッチかつ極めて本物のサカナに近い泳ぎと、Fモデルは小型スチールボールを2個搭載した重心移動に対し、SPでは3つの重心移動ボールを搭載したことによって、ただ巻きでもコトコト音を発することに定評がある。また、トゥイッチしたときに発する音は強烈なのだが、今回の限定モデルでは、ボーン素材を採用したことで、より大きな音を発するようになった。さらにハイフローティングにすることで、浮上スピードが上がり、水面まで浮き上がったときにラトルの音が発生する。これにより、食い渋るバスにスイッチを入れたり、ウィードの中に潜むバスに存在を知らしめるなど、その効果は計り知れない。乞う、ご期待!

実は意外と知られていないブレッドジグが釣れる理由のひとつ

意外かもしれないが、O.S.Pブレッドジグの音の効果もまた、絶大なのである。通常ブレッドジグカテゴリーは速く引くと浮き上がり、ゆっくり引いてもミドル〜ディープレンジを通しにくいモデルが多い中、O.S.Pのブレッドジグは他に比べて一段下の層を引きやすだけでなく、透明ブレッドの効果で金属的なフラッシングを嫌う状況下でも釣れる。これら特徴に加えて、他のブレッドジグよりもよく釣れる理由のひとつが、音なのである。社内のプールで泳がせて見ても明白だったが、ヘッドとブレッドの角がよく当たり、ここで音を発している。これは森田氏のように、年間釣行日数が多くルアーに対する造詣が深いアングラも認める事実。実はパーツ同士の衝撃音が強いルアー、それがブレッドジグなのである。

最後に、衝撃音のつながりで話しをすると、O.S.Pには02ピートシリーズがある。今から30年近く前、はじめてミノーでバスを手にした自分はどんどんバスフィッシングにのめり込み、そん

なタイミングで出会ったのがバズベイトだった。

クラッカーモデルのバズベイトに出会ったのは、それから数年後だっただろうか。とにかく、クラッカーモデルは非常によく釣れた。クラッカーが舵の役割を担ってまっすぐ引けることに加えて、何より衝撃音でバスを呼ぶ。ちょうどバスが増えはじめた霞ヶ浦において衝撃音のないタイプのバズとクラッカータイプのバズを比べたのだが、その差は歴然。クラッカータイプのほうが圧倒的に釣れた。しかし世にあるクラッカーはすべてアルミ素材。これを見直せば、もっと衝撃音が大きくなるのではないかと、という発想から生まれたのが02ピートである。クラッカーをプラスチックにしたことで、「やかましい」までの衝撃音を放つのだが、実はここに辿り着くまでに、さまざまな試行錯誤を繰り返したのは言うまでもない。スチールやタングステンのボールがペラにぶつかるような構造にしようか、いっそのことペラもプラスチックにするなど、さまざまな案が出て、すべてを試してみた。プラスチックでは重過ぎて浮き上がりが悪くなり、衝撃音が大きくなったとしても水しぶきの音は弱くなるうえに、速巻きでしか使えないものになる。ペラが生む水しぶきの量と音、加えてクラッカーの衝撃音、そしてスローリトリブ性能……これらすべてのトータルバランスから、現在の02ピートに至ったのである。

そんな02ピートにはオリジナルに加えてパビーというジュニアサイズがある。中小型のバズベイトながらしっかりと強い音を発し、ハイプレッシャー化されたフィールドにおいても効果を生んでいる。ある意味これが、日本のフィールド規模を考えるとスタンダードなのかもしれない。また、今年6月にリリースした02ピート・ストロングはボディや各パーツこそオリジナルと同じではあるが、スカートに極太ラバーを採用した。しかもカラーはブラックがメイン。極太ラバーがより水を多く押すことによってバスの側線にアピールすると同時に、さらにゆっくり引くことも可能にした。また、トップウォーターを下から見上げるバスに対し、黒のラバーが視覚にもアピール。バスを威嚇し、イラつかせてバイトに持ち込む最強のバズベイトと言えるだろう。

今回はハードルアーの音について語ってきたが、ワームや中空フロッグにガラスラトルを挿入することで、音のアピールを追加するのもときに効果的だ。もしフロッグに入れるのであれば、浮力を損なわない、それでいて正しいアクションをするというサイズ選びが重要だが、そういったチューニングがあることも記しておこう。





奥村哲史 @滋賀県・琵琶湖南湖

YAMATO Jr. SPEC2
(リアルアユ・ツレスギル)

ひとつで二役をこなす最強ペンシル



琵琶湖南湖での主たる
ベイトフィッシュは「ブル
ーギル」と「コアユ」、
そして「ハス」になります。

この3種は、泳ぐスピードやウィードへの
依存の仕方では2種類に分けることができま
す。まず「コアユ」と「ハス」のグループ
は泳ぐスピードが速く、ウィードの中に潜
り込むことはありません。対して「ブル
ーギル」は泳ぐスピードは遅く、ウィードの
中に潜り込む習性があります。そこで琵琶
湖南湖でトップウォーターゲームを楽しむ
とき、プラグのチョイスや、動かし方は、
どちらのグループを追うバスを狙うのかを
イメージしておく必要があります。

そこでワタシがチョイスするのは「ヤマ
ト Jr. スペック2」です。基本的に「コアユ」
や「ハス」を追うバスにはペンシルベイト、
「ブルーギル」を追うバスにはポッパーだ
とされているのですが、ヤマト Jr. スペ
ック2は、ペンシルベイトのように連続し
たドックウォークも可能ですし、ポッパー
のようにスプラッシュを上げながら移動距
離を抑えての焦らしアクションも得意。自
分が今、何を狙っているバスを食わせよう
としているのかをしっかりとイメージし、
それに見合った動かし方をしてくださいね。
あと、カラーを合わせるのも忘れないで
ください。「コアユ」と「ハス」の場合、
ハスやリアルアユ。「ブルーギル」の場
合はツレスギルがオススメです。

金沢俊佑 @福島県・松原湖

オリカネ虫
(アメリカシロヒトリ)

二通りの使い方方でビッグバスを呼ぶ!



8月の松原湖では、本
格的な虫パターンの季節
を迎えます! そこで、
虫パターンで欠かせない
ルアーといえば『オリカネ虫』ですね。カ
ラーは松原湖におけるメインの虫であるマ
イマイガに合わせて、アメリカシロヒトリ
を多用します。

主な使い方はふたつ。ひとつは、あえて
弧を描くようにキャストし、「ポトツ」と
着水させて見えないバスを浮かせて食わせ
る方法。この時、着水させたルアーを動か
すのは厳禁です。ただ浮かべておく。する
とオリカネ虫の特徴であるレッグの根元
にあるフィンによって、レッグが水面に浮き、
本物の虫に近いシルエットがバスに見事に
口を使わせるでしょう。

ふたつめは、ブッシュや枝に引掛けて
行うチョウチン釣りです。オリカネ虫には
2本のガードが付いており、いままで攻め
きれなかったオーバーハン
グの奥の奥を攻めること
ができます。チョウ
チンでのアクションは
こまか〜いシェイク。
水面に浮いたレッグが
細かい波動を出してく
れますよ〜。

このふたつがボクの主な
オリカネ虫の使い方です。このルアーのポ
テンシャルは本当に高いです。この夏はぜ
ひ、オリカネ虫をもって松原湖へ! きっ
とデカバスがよだれを垂らして食らいつ
てきますよ〜!!



坂本洋司 @徳島県・旧吉野川

YAMATO O.S.P
(TGサンフィッシュ)

替える前の一手でワンモア!!



梅雨入りしアフター完全回
復の個体も増え始めボイルも
ところどころ目にするこ
とがある旧吉野川において、ま
ず私がチョイスするの表層系
ルアー! 02ビートやダイバジン、ヤマ
ト、スピントールフロッグなどO.S.Pル
アーには隙のない表層系ルアーが取り揃
っていますが、その中でもまず手にする
のはYAMATO O.S.Pです。

ペンシルポッパーのカテゴリーに位置
するこのルアーですが同カテゴリーの中
でもポップ音とスプラッシュのアピール
力は抜群! そんなYAMATO O.S.Pの使
い方ですが、基本的にはオリジナルモデ
ルから使いはじめ、バスが出にくい時は
スペック2にローテーションしたり、
YAMATO Jr.にチェンジして、その日
のバスへの反応に合わせていきます。

使い所は護岸際やアシ際、カバーまわ
りに橋脚など... これらに共通して言え
るのは水深の比較的浅いエリアが有効で
す。カラーはフラッシング効果の高いTG
サンフィッシュが私のお気に入りです。
あとヤマトにはラインアイが2つあり、
上側のラインアイで巻いて来るとダイブ
気味にアクションするので、ルアーロー
テーションをする前にもう一手として使
ってみてもらうと、さらにバスをキャッ
チできるかもしれませんよ!



「今」最も効果的な釣り。

あなたなら、どうする? どうしてる?

釣りに行くための〇〇

全国のお父さんアングラ―様。釣りに行きたくても、
自由に行くこと、**かないませんよね?**それは**釣り業界人**とて同じ。
だから釣りに行く前には必ず、**こんなこと**、しているのです……

【 **子どもが小さいうちから、しっかりと英才教育。** 】——プロスタッフ**宮本洋平**さんの場合

ウチの子供が小さいころは、釣りに行くために
食事後の食器の片づけを手伝ったり、子供を野池
やボート釣りに連れて行ったりしていました。そ
のおかげで上の娘は4歳で、下の娘も7歳で初バ
スをゲットするという英才教育になりました
(笑)。今では子供も大きくなり手が離れてしまっ
たので、釣りに行くのも割りと同自由の身ですが、
振り返ってみるとあの頃はよかったな... などと
しみじみ思います。

ここ最近では、バス釣りに行ける貴重な時間を
短時間で最大限釣果が上げられるように、これま
での19年間のデータ(約5000匹のバス)や天気
そして水位をチェックするのを欠かさないように
しています。

まず、釣果データでチェックするのは、同じ時
期に一番数が釣れたパターンです。それと同じく

らい重要なのは、その前後の時期に釣れたビッグ
フィッシュのパターン。季節のズレにより前後の
ビッグフィッシュパターンが本命になったり、逆
もあったりしますので、それを頭に叩き込んでフ
ィールドに向かいます。

天気と水位の情報も、生活の場と釣り場が離れ
ている場合はとても重要です。毎週釣りに通っ
ている場合でも、朝イチはこの感覚のズレがあると
修正に時間を要します。そうならないように水位
や増減水のスピード、そして天候は気温も含めて
マメにチェックしています。「川の防災情報」で
は主要なダム水位・降水量もチェックできま
すし、登録しておけば大雨が降って放流する場合、
携帯にメールで通知を受信することもできますよ。
というわけで釣りに行く前は、家族サービスと
情報チェックをお忘れなく!



O.S.P. クロニクル

開発担当者が語る、あのルアーの秘密。

空前のビッグベイトブームに沸いた時代。圧倒的な存在感でバスを呼ぶ、というメリットはそのままによりカバーに対してタイトに、ときにはその中も攻められる。そんなビッグベイトがほしい、という並木敏成の要求を具現化したビッグスピナーベイト“タイフーン”。発売から10年以上の時を経てなお、その威力は衰えない…

第7話 // Typhoon

カバーを際どく攻められるビッグベイト

2001年11月に、O.S.P.としてはじめてのワイヤーベイト“O.S.P.バズゼロワン”をリリース。それとほぼ同時に、今回ご紹介するタイフーンの開発はスタートした。

当時、日本のバスフィッシング界はこれまでになかったスイムベイトやビッグベイトと呼ばれる大型ルアーが大流行。これらはボディの大きさに比例してフックサイズも大きく、カバーをよりタイトに、もしくはその中を通すという戦略は事実上、不可能であった。むしろその圧倒的な存在感でバスをカバーの外までおびき出して食わせる、というのが一般的な使い方だった。

「タイフーンを開発するきっかけは、よりカバーにタイトに当てながら、もしくはその中を通したい、という並木の要求からスタートしました」と開発担当は語る。

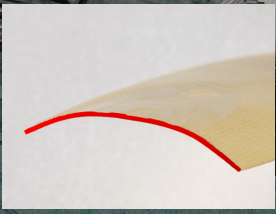
そのころ、すでにあったビッグスピナーベイトの中で、最も大きなブレードサイズは#7。長さにして9.5cmほどであったが、まずはこのサイズを超えるブレードを装着する、というところから開発はスタート。結果的にダブルウィローには#7(9cm)、タンデムウィローには#10(11cm)という規格外のサイズを作り上げたのだが、ただ単純にデカイブレード、というわけではない。



「スピナーベイトを作るときの、最大の課題はやはりブレード。引く時の抵抗や手に伝わるバイブレーション感、あとは回転スピードや回転角度などの調整に回数

を要し、ましてはね。しかもサイズが大きいのでなおさらです。とは言え、最も苦労したのは私たちではなく、工場のほうですが…」

話しは前後するが、タイフーンには大きく3つのコンセプトが掲げられた。まずは「一日を通して、使い続けられること」。例えばレギュラーサイズのスピナーベイトでも1/2ozクラスになると、モノによっては巻き続けるのはキツイ。重くて抵抗も大きくなるからだ。それがタイフーン



のサイズになると、なおさら。そこでブレード形状に工夫を施し、その解消を目標だ。

「縦方向の湾曲を抑えて、横方向だけ深さを持たせました。また横幅も抑えることで引き抵抗が軽くなり、回転スピードは向上。回り出しも非常によくなりました。」

次にキャストビリティ。#10ブレードの重量は10.66g、#7では7.5gもあるこのウエイトを投げるためのヘッドが必要ということで、結果的に1ozになった。ちなみに1ozと聞くとディーブのスローロール専用と思われる方も多いだろうが、実は水面直下からミドルレンジをも得意とするのは、タイフーンの特徴のひとつでもある。

最後に、汎用性。これは決して、どこでも使えるというものではなく、あくまでも「使用条件を選びすぎ

ない」ことに重きを置いて開発。スピナーベイトといえば風が吹いた時や濁りの中で強い存在だが、そういった状況

でなくても食わせられるよう、大きなブレードのフラッシングを抑えるデザインを採用したのだ。「表面のシボ加工とウロコ模様をミックスさせることで、光り過ぎないブレードを作り上げたのです。これはのちに、ハイピッチャーやハイピッチャーMAXにも継承しています」。

スイムベイトやビッグベイトは、ビッグバス専用というイメージが強い。しかしタイフーンに関してはそんなことはなく、幅広いサイズのバスが普通に釣れる。それは圧倒的な存在感を誇る大きなブレードによる「寄せ」とレギュラーサイズのスピナーベイトと遜色ないヘッドによる「食わせ」を兼備しているからにほかならない。他に類を見ないビッグスピナーベイトとして、今なお高い支持率を誇っている。

「琵琶湖のプロスタッフの間で、定番のテクニクとして用いられているのが、水面まで出ているエジモのバッチの際ギリギリを引いてくる、というもの。するとその中からバスが出てくるというのです。レンジはホントに、タイフーンが見えるほどの表層付近。発売当時から今なお、継続して効いているメソッドなので、ぜひ試してみてくださいほしいですね」。

表層からディーブまで幅広いレンジに対応し、かつ、釣れるサイズも選ばない。しかも、カバーに対してタイトに攻められる。だからこそ発売から10年以上が経過した今でも、多くのアングラーに使われている、これもまたO.S.P.が掲げる「10年基準」をクリアしたアイテムである。

